

# 橋の計画的維持管理の実践

現状と課題

1. 急速な橋の高齢化
2. 限られた財源
3. 求められる安全・安心

取り組み方針

- 計画的維持管理（アセットマネジメント）により
1. 橋の長寿命化を図ります
  2. ライフサイクルコストを縮減します
  3. 安全・安心にかかる事業を着実に進めます

## ※アセットマネジメントとは

橋を市民の資産（アセット）と位置づけ、この資産を効率よく維持管理（マネジメント）すること。

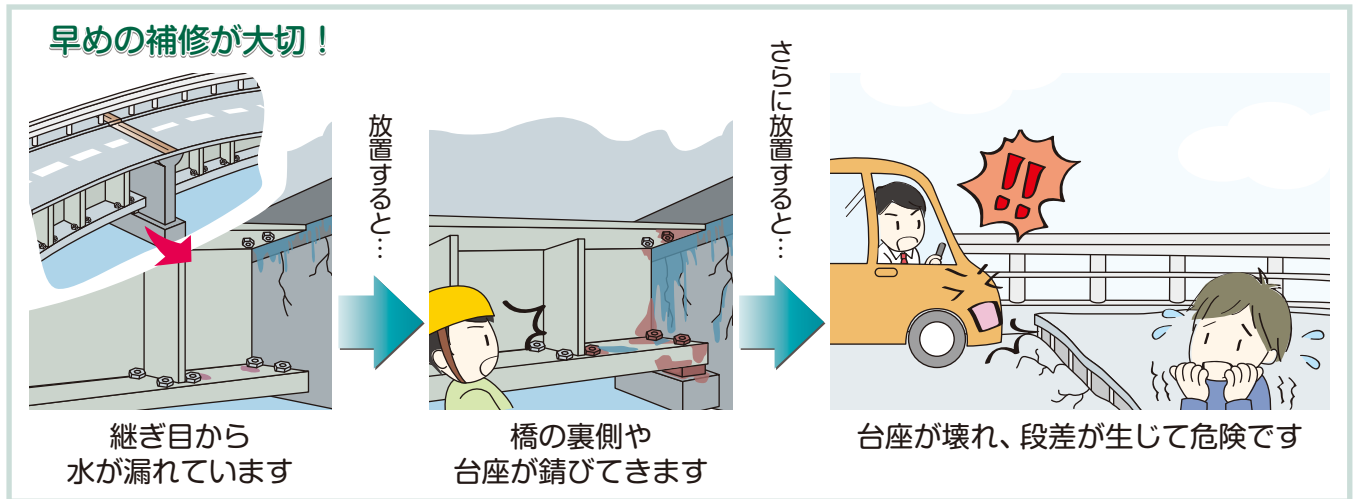
## ※ライフサイクルコスト（LCC）とは

橋の建設から解体までの期間中に要する建設費や維持管理費などの総額をいいます。

## 予防保全による橋の長寿命化

傷んだ橋をそのまま放置しておく、と、損傷は徐々に進行して、道路が通行止めという事態にもなりかねず、将来にわたり橋を適切に保全し、道路ネットワーク機能を維持していくことが必要です。

そのため、これまでは損傷が大きくなってから補修する「事後保全」を行っていましたが、今後は損傷が大きくなる前にこまめに補修する「予防保全」を行い、橋の長寿命化を図ります。日常の維持管理の費用はかかりますが、架替に要する多額の費用を抑えることにより、ライフサイクルコストの縮減が可能となります。



## 予防保全を実現するための取り組み

予防保全を計画的に行っていくためには、点検によって常に橋の状態を把握し、橋の劣化が今後どのように進んでいくのか、いつどのような対策を行うことが最適か、などの検討を行って最適な保全更新計画をたてる必要があります。

近年、橋の損傷データの蓄積が進み、予防保全を計画的に行っていくために必要となる劣化の予測が可能となってきました。

本市では、新たな知見を取り入れながら橋の予防保全を進めるためのシステムとして、大阪市橋梁維持管理システムを構築し、運用しています。

